

いる。したがって、「心疾患」死亡率の上昇は虚血性心疾患死亡率の上昇によるものである。将来、わが国における「脳血管疾患」による死亡率は減少傾向を示し、一方、「心疾患」による死亡率は上昇傾向を示し、西欧諸国の死因順位と同傾向を示す方向へ進むように思われる。したがって、今のうちから「心疾患」の予防策を講ずる必要があるだろう。

本報告では、昭和52年度の10大死因を取扱ったために、「全結核」による死亡に関しては、ふれなかった。しかし、「全結核」は戦前から昭和25年まで死因順位第1位であったが、昭和47年以後、第10位に転落し、昭和52年には第10位以下に姿を消した。

長期間に渡り死因の変遷を見渡すと、医学の向上により治療が可能になった「全結核」や「肺炎・気管支炎」による死亡が減少し、そのかわりに「悪性新生物」や「先天異常」のような難病による死亡がクローズ・アップされてきたといえよう。また同時に、低位死因群に含まれるが、「肝硬変」や「糖尿病」による死亡も最近目だち始めていることを追加しておきたい。

今後、平均寿命を延ばすためには、「悪性新生物」であるガンの早期発見によりガンを予防すると共に、「脳血管疾患」、「心疾患」、「高血圧性疾患」、「肝硬変」および「糖尿病」などの疾病も、中年以降の食生活をも含めた健康管理をすることにより、これらの疾病の発病を減少させることが可能と思われる。

(今泉洋子・三田房美)

文 献

平山 雄、『予防ガン学』、新宿書房、1977年。

今泉洋子、「先天異常率の推移と地域変差に関する分析」、『人口問題研究』、第127号、1973年7月、20～34ページ。

今泉洋子・三田房美、「日本における糖尿病死亡率の年次推移と地域格差—死亡統計分析—」、『人口問題研究』、第147号、1978年7月、24～54ページ。

厚生省大臣官房統計情報部、「交通事故以外の不慮の事故死」、『人口動態社会経済面調査報告』、昭和52年度、1979年6月。

篠崎信男、「死因別死亡の特徴」、『人口問題研究』、第100号、1967年2月、96～108ページ。

3 地域・社会的差異からみた死亡

(1) はじめに

地域の自然的環境の差異、医療水準、あるいは食生活の違い等、社会経済的差異によって死亡状況に差が生じる。また、職業、配偶関係等、個人のおかれている立場によっても死亡状況に差が生じることは考えられる。

死亡状況を端的に表わす指標として、生命表の平均寿命がある。最近では、厚生省大臣官房統計情報部において、国勢調査年次の都道府県別生命表を作成しているので、死亡状況の地域差を生命表の平均寿命および年齢別死亡率によってみることにする。次いで、配偶関係による死亡状況の差について、死因構造の分析も含めてみることにする。なお、職業別、産業別死亡については、国勢調査年次について公表されていたが、昭和50年の結果がまだ公表されていないため、差別死亡率としては重要な指標であるが、ここでは除くことにする。

(2) 地域別死亡

昭和50年地域別生命表⁴⁾によって、都道府県別平均寿命を比較してみると(表8参照)、男子では、東京都が73.19年と最も長寿命である。現在、世界一長寿命であるといわれている国、アイスランドが73.0年(1975~76年)であるから、かなりの長命であるといえる。男子では次いで、神奈川県72.95年、京都府72.63年の順であり、平均寿命72年を超える県が12県もある。女子では、沖縄県が78.96年と最も長寿命であり、次いで、東京都77.89年、神奈川県77.85年、岡山県77.76年の順であり、平均寿命77年を超える県が実に17県もある。男子72年、女子77年を超える平均寿命を示す県を仮に長寿命県とすると、東京都、神奈川県、長野県、静岡県、京都府、岡山県、沖縄県の7都府県が長寿命県となる。

逆に最も短命であるのは、男子では青森県であり、69.69年と最も長命である東京都とは3.5年のひらきがある。次いで、秋田県、高知県の順に短命である。また、女子では秋田県が75.86年と最も短命であり、最も長命である沖縄県とは3.1年の差である。概して東北地方、九州地方は短命のようである。

昭和40年以降の動向をみると、男子では常に東京都が第1位であり、女子では昭和40年東京都、45年岡山県、50年沖縄県と第1位が変化している。もっとも、沖縄県は45年以前のデータがなく、50年の結果から沖縄県を除いた場合、東京都が再び第1位となる。次に平均寿命の長短を区分して動向をみることにする。平均寿命の平均値をとり、平均値より+1 δ 以上の長い平均寿命を示す県をAクラス、平均値から+1 δ までの平均寿命を示す県をBクラス、平均値より-1 δ までの平均寿命を示す県をCクラス、平均値より-1 δ 以下の短い平均寿命を示す県をDクラスに区分する。

昭和40年以降、男女ともAクラス、すなわち、長い平均寿命を維持している県は、東京都、神奈川県、岡山県の3県のみである。男子のみについては、愛知県、京都府も、女子のみについては、静岡県、広島県の各県もAクラスを維持している。逆に昭和40年以降、男女ともDクラスという短い平均寿命である県は、岩手県、秋田県の2県あり、これも男子だけに限れば、青森県、栃木県、女子だけに限れば、山形県、福島県、徳島県の各県がDクラスで低迷している。

また、昭和40年以降、平均値より平均寿命が短かったのが、平均値より長く変化した県は、男子では北海道、宮城県、埼玉県、石川県、滋賀県、女子では長野県、熊本県があり、逆に、平均値より平均寿命が長かったのが、平均値より短く変化した県は、男子では和歌山県、愛媛県があり、女子では岐阜県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、高知県がある。和歌山県は男女とも順位がさがったことになる。その他、変動の大きな県として愛知県の女子があげられ、昭和40年のAクラスから、45年Bクラス、50年Cクラスと移動しているのが注目される。

最後に、昭和45年から50年にかけての伸び年数をみると、男子では、秋田県が2.61年と最も伸びが大きく、逆に、最も伸びが小さいのは大阪府で1.44年の伸びである。女子では島根県が2.16年と最も伸びが大きく、逆に最も伸びが小さいのは愛知県で1.35年の伸びである。概して平均寿命の短い県の方が伸びが大きいうようで、地域差は毎年縮まっている。

ちなみに、昭和45年の平均寿命と、昭和45年~50年にかけての伸び年数との相関をとってみると、男子の場合、-0.712、女子の場合、-0.369となる。また、変化係数によってみても(表6参照)。昭和40年、男子1.44%、女子1.01%から、45年、男子1.35%、女子0.71%、50年には男子1.06%、女子

4) 昭和50年国勢調査による都道府県別年齢別人口および昭和49年~51年の人口動態統計による都道府県別年齢別死亡数を基礎資料として、47都道府県と特別区、政令指定都市について作成してある。

厚生省大臣官房統計情報部、『昭和50年地域別生命表』、謄写。

表 8 都道府県別平均寿命の推移

都道府県	男 子								女 子							
	昭和40年		昭和45年		昭和50年		昭和45～50年の平均寿命の伸び	昭和40年		昭和45年		昭和50年		昭和45～50年の平均寿命の伸び		
	平均寿命	順位	平均寿命	順位	平均寿命	順位		平均寿命	順位	平均寿命	順位	平均寿命	順位			
全 国	67.74		69.84		71.79		1.95	72.92		75.23		77.01		1.78		
北海道	67.46	21	69.26	26	71.46	24	2.20	72.82	25	74.73	31	76.74	27	2.01		
	65.32	46	67.82	45	69.69	47	1.87	71.77	44	74.68	32	76.50	35	1.82		
	65.87	44	68.03	43	70.27	44	2.24	71.58	45	74.13	46	76.20	44	2.07		
	67.29	26	69.49	20	71.50	23	2.01	73.19	17	75.30	16	77.00	16	1.70		
	65.39	45	67.56	46	70.17	46	2.61	71.24	46	74.14	45	75.86	47	1.72		
山形県	66.49	40	68.71	35	70.96	36	2.25	71.94	43	74.46	39	76.35	41	1.89		
	66.46	42	68.52	37	70.71	39	2.19	72.04	41	74.46	39	76.35	41	1.89		
	66.99	33	68.32	39	70.58	42	2.26	72.52	30	74.43	41	76.12	45	1.69		
	66.47	41	68.30	40	70.61	41	2.31	72.44	34	74.27	44	76.31	43	2.04		
	67.34	23	69.22	28	71.23	30	2.01	72.38	36	74.50	38	76.42	39	1.92		
静岡県	67.26	27	69.38	23	71.88	15	2.50	72.45	32	74.62	35	76.61	30	1.99		
	67.71	18	69.61	18	71.99	13	2.38	73.29	15	75.33	14	77.07	15	1.74		
	69.84	1	71.30	1	73.19	1	1.89	74.70	1	75.96	3	77.89	2	1.93		
	69.05	3	70.85	3	72.95	2	2.10	74.08	2	75.97	2	77.85	3	1.88		
	67.18	29	69.07	31	71.14	32	2.07	72.19	37	74.65	34	76.76	25	2.11		
富山県	66.70	37	69.18	29	71.11	33	1.93	72.04	41	74.78	29	76.56	33	1.78		
	67.14	32	69.77	16	71.63	19	1.86	72.40	35	75.04	23	76.58	31	1.54		
	67.96	14	70.18	12	72.21	8	2.03	72.87	24	75.04	23	76.81	22	1.77		
	67.56	20	69.42	22	71.66	18	2.24	73.29	15	75.38	12	77.43	10	2.05		
	68.45	9	70.46	7	72.40	4	1.94	72.81	26	75.22	19	77.00	16	1.78		
岐阜県	68.90	5	70.69	5	72.18	9	1.49	73.03	20	74.96	27	76.41	40	1.45		
	68.21	11	70.31	9	72.32	6	2.01	74.07	3	75.88	4	77.64	5	1.76		
	69.00	4	70.74	4	72.39	5	1.65	73.67	7	75.28	18	76.63	29	1.35		
	68.61	7	70.23	11	71.75	17	1.52	73.32	11	75.29	17	76.84	20	1.55		
	67.26	27	69.66	17	71.51	22	1.85	72.48	31	74.75	30	76.47	37	1.72		
京都府	69.18	2	71.08	2	72.63	3	1.55	73.75	6	75.66	6	77.30	11	1.64		
	68.02	12	70.16	13	71.60	20	1.44	73.30	13	75.21	20	76.57	32	1.36		
	68.29	10	70.32	8	71.82	16	1.50	73.48	9	75.63	7	77.13	13	1.50		
	67.97	13	70.29	10	72.00	12	1.71	72.89	23	75.16	22	76.76	25	1.60		
	67.75	17	69.48	21	71.25	28	1.77	73.57	8	75.19	21	76.81	22	1.62		
鳥取県	67.18	29	69.29	25	71.42	25	2.13	73.39	10	75.44	8	77.45	8	2.01		
	67.77	16	69.54	19	71.55	21	2.01	73.01	21	75.37	13	77.53	6	2.16		
	68.68	5	70.69	5	72.25	7	1.56	74.03	4	76.37	1	77.76	4	1.39		
	68.61	7	70.15	14	72.04	11	1.89	73.93	5	75.80	5	77.48	7	1.68		
	67.30	25	69.16	30	71.20	31	2.04	72.98	22	75.33	14	77.27	12	1.94		
徳島県	66.69	38	68.56	36	70.71	39	2.15	72.14	38	74.30	43	76.00	46	1.70		
	67.67	19	69.95	15	71.91	14	1.96	73.16	18	75.44	8	77.12	14	1.68		
	67.81	15	69.26	26	71.25	28	1.99	73.30	13	75.41	11	76.91	18	1.50		
	66.94	34	68.02	44	70.20	45	2.18	73.32	11	74.99	25	76.50	35	1.51		
	67.32	24	69.32	24	71.41	26	2.09	73.11	19	75.44	8	77.44	9	2.00		
佐賀県	66.69	38	68.83	34	71.10	34	2.27	72.65	28	74.85	28	76.83	21	1.98		
	66.29	43	68.17	41	70.74	38	2.57	72.06	40	74.37	42	76.46	38	2.09		
	67.18	29	69.06	32	71.36	27	2.30	72.60	29	74.97	26	76.89	19	1.92		
	66.83	36	68.99	33	71.03	35	2.04	72.07	39	74.66	33	76.73	28	2.07		
	66.93	35	68.40	38	70.75	37	2.35	72.45	32	74.62	35	76.77	24	2.15		
鹿 児 島	67.36	22	68.14	42	70.54	43	2.40	72.71	27	74.62	35	76.53	34	1.91		
沖 繩	—	—	—	—	72.15	10	—	—	—	—	—	78.96	1	—		

表 9 平均寿命の都道府県間分散度：昭和40年～50年

	男 子			女 子		
	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和40年	昭和45年	昭和50年
最 長 寿 命	69.84 (東京)	71.30 (東京)	73.19 (東京)	74.70 (東京)	76.37 (岡山)	77.89 (東京)
最 短 寿 命	65.32 (青森)	67.56 (秋田)	69.69 (青森)	71.24 (秋田)	73.13 (岩手)	75.86 (秋田)
最長と最短の差	4.52	3.74	3.50	3.46	2.24	2.03
平 均	67.49	69.41	71.44	72.88	75.05	76.84
標 準 偏 差	0.97	0.93	0.76	0.73	0.53	0.49
変 化 係 数	1.44%	1.35%	1.06%	1.01%	0.71%	0.64%

昭和50年は沖縄県も算出してあるが、昭和45年以前との比較上、本表の数値計算は沖縄県を除いて算出している。なお、沖縄を含めると、女子は沖縄県が78.96年で最長寿命県となる。

0.64%へと小さくなっており、地域差の縮小がみられる。各年次とも女子の方が地域差は小さくなっている。

(3) 都道府県別年齢別死亡率

都道府県別生命表における死亡率 qx をみると、長寿命県であるからといって、各年齢の死亡率が全て低いとは限らない。また、逆に短寿命県であるからといって、各年齢の死亡率が全て高いわけではない。

表10は、都道府県別年齢別死亡率の最高値、最低値、平均等を示したものである。男子の最長寿命県である東京都の場合、どの年齢の死亡率も低いレベルにあるが、年齢別死亡率が最低を示しているのは、15～19歳、20～24歳、25～29歳および35～39歳の4階級である。最短寿命県である青森県では、どの年齢の死亡率も平均値よりは高いのであるが、青少年期の死亡率はそれほど高くはなく、年齢別死亡率が最高を示しているのは、3歳、55～59歳および60～64歳のみである。

また、女子については、最長寿命県であるのは沖縄県であるが、年齢別死亡率が最低を示しているのは、2歳および60歳以上の高年齢であり、逆に20～24歳および40～44歳の2階級では死亡率が最高値を示している。最短寿命県である秋田県では、65歳以上の高年齢で最高の死亡率を示しているが、平均値より低い死亡率を示す年齢階級も半分ある。

次に、各年齢別死亡率の地域差を変化係数でみると、男女とも若年齢の方が格差が大きく、年齢が高くなるにしたがって格差が高まっている。このことは、地域の自然的および社会的環境の差は、若年齢には大きく影響するが、高年齢まで生き残れる人ほど、その影響が小さくなっていくと考えられる。また、男子と女子の年齢別死亡率を比較してみると、14歳までの若年齢と65歳以上の高年齢では女子の方が格差が大きく、15～64歳の生産年齢人口に当る層では男子の方が格差が大きくなっている。男女の労働力率の差、地域の産業、職業の差が表われているようである。

最後に、参考のために都道府県別の最高、最低死亡率をつなぎ合わせて生命表を作成してみると、最低死亡率をつなぎ合わせた場合、男子74.19年、女子80.21年となり、わが国の平均寿命は、現在より男子1.22年、女子1.88年伸びる可能性があるといえる。また、最高死亡率をつなぎ合わせた場合、男子68.62年、女子74.82年となり、男子は昭和41、2年、女子は昭和45、6年のレベルとなる。

表 10 年齢別死亡率 qx の都道府県間分散度：昭和50年

(‰)

年 齢	最 高	最 低	分布範囲	平 均	標準偏差	変化係数
	男		子			
0	15.09(岩手)	9.26(岡山)	5.83	11.76	1.44	12.24
1	2.31(岩手)	0.97(京都)	1.34	1.60	0.33	20.63
2	1.96(鳥取)	0.70(千葉)	2.80	1.08	0.25	23.15
3	1.37(青森)	0.46(奈良)	0.91	0.81	0.18	22.22
4	1.19(高知)	0.38(長野)	0.81	0.69	0.17	24.64
5 ~ 9	3.33(香川)	1.59(福井)	1.74	2.32	0.36	15.52
10 ~ 14	2.22(高知)	0.94(佐賀)	1.28	1.51	0.27	17.88
15 ~ 19	6.93(茨城)	2.66(東京)	4.27	4.68	0.89	19.02
20 ~ 24	9.33(高知)	3.32(東京)	6.01	6.30	1.34	21.27
25 ~ 29	8.54(高知)	3.95(東京)	4.59	5.92	1.08	18.24
30 ~ 34	10.03(高知)	5.05(愛知)	4.98	7.24	1.35	18.65
35 ~ 39	16.24(高知)	7.92(東京)	8.32	10.63	1.77	16.65
40 ~ 44	21.63(高知)	11.93(福井)	9.70	16.46	2.23	13.55
45 ~ 49	28.64(長崎)	18.11(福井)	10.53	23.08	2.51	10.88
50 ~ 54	42.86(宮崎)	29.08(愛知)	13.78	33.74	3.09	9.16
55 ~ 59	62.17(青森)	45.97(神奈川)	16.20	52.73	3.88	7.36
60 ~ 64	99.91(青森)	75.17(神奈川)	24.74	84.77	5.89	6.95
65 ~ 69	167.61(秋田)	122.79(沖縄)	44.82	140.65	9.56	6.80
70 ~ 74	259.06(秋田)	198.91(沖縄)	60.15	227.50	13.15	5.78
75 ~ 79	393.03(栃木)	283.41(沖縄)	109.67	352.35	20.76	5.89
80 ~ 84	559.77(滋賀)	414.03(沖縄)	145.69	511.93	25.41	4.96
	女		子			
0	12.00(岩手)	6.80(山梨)	5.20	9.25	1.23	13.30
1	1.97(富山)	0.89(島根)	1.03	1.35	0.29	21.48
2	1.37(愛媛)	0.51(沖縄)	0.86	0.78	0.20	25.64
3	1.18(宮崎)	0.29(大分)	0.89	0.60	0.19	31.67
4	0.97(鳥取)	0.14(奈良)	0.83	0.49	0.15	30.61
5 ~ 9	1.93(高知)	0.53(島根)	1.35	1.43	0.25	17.48
10 ~ 14	1.55(大分)	0.59(栃木)	0.96	0.96	0.21	21.88
15 ~ 19	2.71(高知)	1.27(東京)	1.44	1.76	0.29	16.48
20 ~ 24	4.46(沖縄)	2.11(東京)	2.35	2.95	0.52	17.63
25 ~ 29	4.66(鹿児島)	2.53(福井)	2.13	3.36	0.52	15.48
30 ~ 34	5.47(岩手)	3.31(千葉)	2.16	4.19	0.54	12.89
35 ~ 39	7.32(鹿児島)	4.71(神奈川)	2.61	5.76	0.63	10.94
40 ~ 44	10.62(沖縄)	7.03(新潟)	3.59	8.51	0.73	8.58
45 ~ 49	14.32(徳島)	10.26(島根)	4.06	12.55	1.91	7.25
50 ~ 54	23.31(徳島)	16.30(鳥取)	7.01	19.40	1.33	6.86
55 ~ 59	33.91(高知)	25.75(山梨)	8.16	29.37	1.73	5.89
60 ~ 64	52.96(徳島)	39.09(沖縄)	13.87	46.90	2.68	5.71
65 ~ 69	92.15(秋田)	61.20(沖縄)	30.95	79.96	5.87	7.34
70 ~ 74	165.66(秋田)	103.33(沖縄)	62.33	142.36	10.71	7.52
75 ~ 79	280.49(秋田)	188.63(沖縄)	91.86	252.80	17.21	6.81
80 ~ 84	479.96(秋田)	303.94(沖縄)	176.02	416.08	25.24	6.07

(4) 配偶関係と死亡

配偶関係の相違，すなわち未婚・有配偶・離別・死別に分類される婚姻上の地位の違いは，死亡秩序に格差を生じさせる。死亡は，個々のおかれている環境により大きく左右されるものである。とくに，有配偶者と無配偶者とは，各々のおかれている生活環境も異なり，死亡にも大きな差となって現われる。

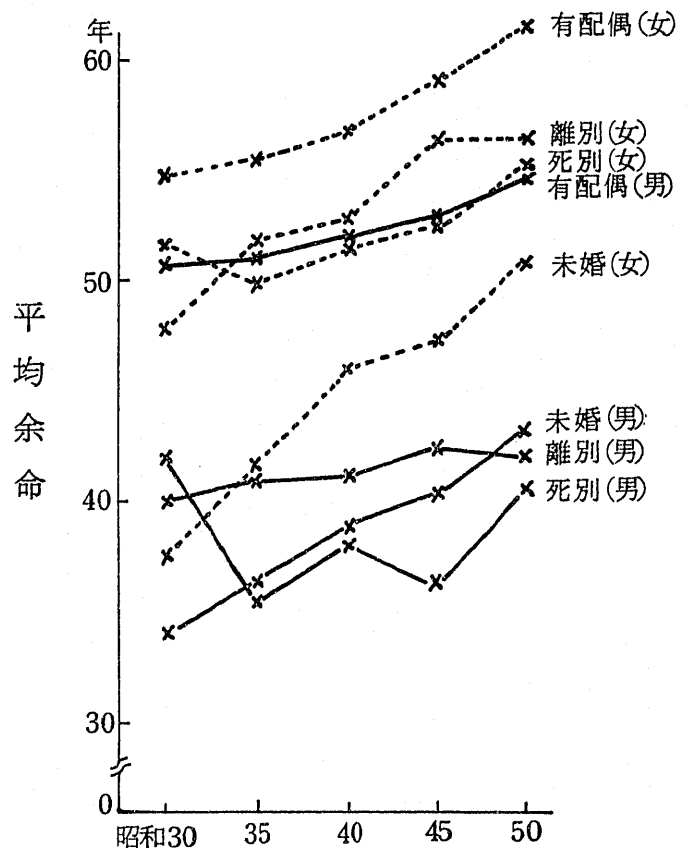
死亡秩序もしくは死亡水準の比較に配偶関係別生命表を用いてみると，男女とも有配偶者の死亡率が低く，平均余命は顕著に高い値を示す。逆に，未婚者の平均余命は低く，とくに，女子については大きな差がみられる。これは配偶者の有無により，精神的な安定や，生活の規則性に大きく役割りを果たしており，健康や衛生面に影響を与えていると思われる。さらに，身体的や精神的に恵まれたものが有配偶に属しやすく，有配偶者と未婚者との差がさらに大きくなると思われる。

昭和30年以降の20歳時平均余命の推移⁵⁾をみると，図3に示すように，男女とも有配偶が最も長命であり，逆に短命は，男子では未婚，死別で，女子においては未婚が際立って短い値を示している。しかし，女子の未婚の伸びは著しく，昭和30年の37.72年から50年までの20年間で50.86年となり，3.14年の伸びを示している。また，男子の未婚の伸びも大きく，昭和30年時点では最低であったものが，35年で死別を追い抜き，さらに50年においては離別を上回り，有配偶につぐ長命となった。一方，男子の離別，死別は伸びておらず，ほぼ横ばいか，逆に，40年から50年にかけて離別は低下を示すに至った。

配偶関係別20歳時平均余命は，配偶関係間の差が年々縮まり，ばらつきは小さくなる傾向にある。

昭和50年配偶関係別20歳時の平均余命をみると，男子では有配偶が長く，次いで，未婚，離別，死別の順であり，女子では有配偶，離別，死別，未婚の順で，男女に若干の差がみられる。男子では，有配偶と死別では，14.03年の差があり，女子では有配偶と未婚との間に10.55年の差がみられる。女子よりも男子の配偶関係の違いによる差の方が大きくあらわれる。しかし，年齢が高くなるにつれて，平均余命の順位が変化をする。男子では，30歳前後で，未婚，離別，死別の順位が入れ替わり，有配偶，死別，離別，未婚の順になる。女子では，ほとんど順位の変

図3 配偶関係別20歳時平均余命の推移



5) 昭和30年については，河野稔果，「日本人夫婦に関する結婚の生命表 付配偶関係別生命表：1955年」，『人口問題研究』，第80号，1960年9月，25～42ページ。

昭和50年については，石川 晃，「昭和50年配偶関係別生命表」，『人口問題研究』，第150号，1979年1月，62～69ページを参照。

化はなく、30歳前後で離別と死別が同レベルになり、高年齢になると順位はそのままで差が広がる。

年齢別死亡率 (q_x) により、配偶関係の差をみると、20~30歳では男女とも死別の死亡率が高く、離別、未婚と続き、有配偶が最も低い。だが、30歳を過ぎると男女に差が生じ、男子では離別が最も高くなり、未婚、死別、有配偶の順になる。女子では、30歳を過ぎると未婚が著しく高くなり、離別、死別、有配偶の順に変化する。

表 11 配偶関係別特定死因を除去した場合の20歳時平均余命の伸びおよび伸び率：昭和50年

死 因	男				女			
	未 婚	有配偶	離 別	死 別	未 婚	有配偶	離 別	死 別
	伸 び (年)							
脳 血 管 疾 患	2.73	3.64	3.09	3.79	2.87	5.76	3.67	3.96
悪 性 新 生 物	1.75	2.90	2.19	2.27	2.42	2.84	2.59	2.28
心 疾 患	1.95	1.75	2.08	2.28	1.98	2.59	2.54	2.21
肺 炎 お よ び 気 管 支 炎	0.79	1.61	0.62	0.42	0.78	0.77	0.72	0.67
不 慮 の 事 故	1.17	0.65	0.93	2.46	0.32	0.51	0.54	0.71
自 殺	0.89	0.29	1.84	2.58	0.60	0.28	1.16	0.73
高 血 圧 性 疾 患	0.25	0.27	0.22	0.84	0.31	0.49	0.41	0.41
肝 硬 変	0.64	0.36	1.16	0.52	0.22	0.18	0.23	0.15
全 結 核	0.66	0.21	0.61	0.28	0.27	0.10	0.20	0.13
糖 尿 病	0.14	0.15	0.21	0.14	0.16	0.21	0.18	0.25
	伸 び 率 (%)							
脳 血 管 疾 患	6.30	6.65	7.32	9.31	5.64	9.38	6.52	7.17
悪 性 新 生 物	4.04	5.30	5.19	5.58	4.76	4.62	4.60	4.13
心 疾 患	4.50	3.20	4.93	5.60	3.89	4.22	4.51	4.00
肺 炎 お よ び 気 管 支 炎	1.82	1.11	1.47	1.03	1.53	1.25	1.28	1.21
不 慮 の 事 故	2.70	1.19	4.57	6.05	0.63	0.83	0.96	1.29
自 殺	2.05	0.53	4.36	6.34	1.18	0.46	2.06	1.32
高 血 圧 性 疾 患	0.58	0.49	0.52	2.06	0.61	0.80	0.73	0.74
肝 硬 変	1.48	0.66	2.75	1.28	0.43	0.29	0.41	0.27
全 結 核	1.52	0.38	1.45	0.69	0.53	0.16	0.36	0.24
糖 尿 病	0.32	0.27	0.50	0.34	0.31	0.34	0.32	0.45

平均余命の伸び： $e_x^{(-1)} - e_x$

平均余命の伸び率： $(e_x^{(-1)} - e_x) / e_x$

配偶関係の違いにより、死亡秩序に差がみられた。当然、各配偶関係の死因構造にも差があると思える。そこで、特定死因を除去した場合の平均余命の伸びと、さらにその伸び率を表11に示した。特定死因を除去した場合における平均余命とは、特定死因による死亡が皆無になったと仮定したときのものであり、各死因の各配偶関係に与える生命の影響力をみることが出来る。伸びが長いほど、その死因の影響力は大きく、さらに、各配偶関係間での差が大きければ、配偶関係の死亡に差を与える要因（死因）と考えることができる。

男女各配偶関係とも脳血管疾患の影響力は大きく、3年から5年伸び、伸び率でも6~9%と最も長い。その中でも女子有配偶のそれは顕著に長く5.76年の伸びを示している。3大死因(脳血管疾患・悪性新生物・心疾患)の与える影響は、他死因に比べ著しく大きく、ほぼ2年以上の伸びがみられ、

伸び率でも4%以上の伸びを示している。3大死因以外では、自殺、不慮の事故の男子死別者に与える影響が大きく、次いで同両死因による男子離別者が大きくなっている。伸び率では、男子死別における自殺が高く、6.34%である。

伸び率の各配偶関係間のバラツキをみると、男子の高血圧性疾患が大きく、これは男子死別の伸び率が高いためのものである。他に、男子自殺、さらに不慮の事故が大きく、伸び年数、伸び率とも男子の自殺については大きな差がみられる。女子については、配偶関係間に差はみられない。

(金子武治, 石川 晃)